

MIZUBE 「B&G 水辺の安全教室」の意義

筑波大学体育系教授 椿本昇三（監修）

水泳教育の最も重要な意義は、尊い人命を守るための知識と技能を身に付けることです。

警察庁の統計によると、1990年代初頭の年間水死者数は1,500人前後で推移しながら減少することがありませんでした。そのため水泳教育に変革が求められ、「着衣泳」が命を守る安全教育のプログラムとして認知されるようになっていきました。

こうしたなかで、B&G財団や学校、スイミングクラブなどが、水難事故に対する意識の向上や事故回避方法の習得を目的とした授業・研修会・講習会などを地道な努力で続けた結果、約20年が経過した現在では、水難事故による水死者が大きく減少しています（2013年死者・行方不明者数：803名「平成25年 水難の概況」（警察庁統計資料）より）。

しかしながら、水辺における危険を回避するための教育を確立し、さらなる成果をあげるには、まだまだ長い道のりが残されています。2002年度に施行された小・中・高等学校の「学習指導要領」では、自然と関わりの深い活動の1つとして「水辺活動」が明記されましたが、実際に水辺活動を行う場合には、「安全上の問題」「時間的な制約」「指導者の不足」「施設や実施場所の問題」等、多くの阻害要因が存在しています。また、さらに言えば指導者が必要とする水辺活動の適切な指導書が、極めて少ないことも現状です。

そこでB&G財団は、これまで展開してきた「B&G水辺の安全教室」プログラムの改訂に取り組み、基礎から上級へと段階的に理解できるようにステップアップ方式を取り入れながら、動画等を多用したウェブ教材としてまとめ上げました。水辺の安全に関する知識や技能について十分解説されているので、現場で指導にあたる方々にとっては大変心強いテキストになるでしょう。

指導者・教職員の皆様には、本プログラムを通じて子供たちが安全に楽しく水と親しめるように、わかりやすく楽しい教室を実施していただくことを期待しています。そして、ひとりでも多くの子供たちが尊い命を守るための「知識」と「知恵」と「技能」を身に付けてくれることを願ってやみません。